（逐號局認可）　（日曜日休刊）　（定價金二錢）

時事新報

第千四百九十四號
明治二十年一月廿五日　火曜日
舊丁亥正月二日　（庚寅）
日出七時廿七分　入七時十八分
月出午前五時十五分　入午前七時十五分
潮午後六時五十二分　午後三時三十四分
（西暦一千八百八十七年）

時事評論

言論檢束の撤去

言論は成る丈け檢束を可らずとは誠に明白れ道理なれども人或い說を爲して今の日本の有樣にて い之と檢束せざるを得ず若しも然らざるに於ては縱令へ罵詈讒謗を逞うするに至らざるも第一政局の秘密を未遂に洩し第二私身攻擊れ風を生ぜ社會と毒すること容易あらざるべし云々と云へど如何さま人間社會には所謂秘密あるものなれば人生涯の心事一も人に語る能はざるもれあしと申したりとも文明れ人事は極めて多端、特に政事上の進退掛引に至りて い極めて機密を要するものもなりく漫に之を吹聽するときは或は其大事を誤るの恐れなきと得ず左れば記者論客として廣く世事を見聞し之を言ひ之と記するものゝ所謂政局の秘密を知るも總義上又事宜上漫に之と洩さゝると固より當然の事なれとも今寛大の眼を以て社會萬般の事を視察し斯りる秘密は果して如何程ある可きやと尋ねたらゝ其數極めて少おくして蒼海の一粟九牛の一毛と申すも可あらん此一粟一毛は當局者ゝ爲て自ら充分ゝ之と秘し人にも之を秘せし先て可ありと雖ども其他尋常の事項にして之を洩して事ゝ害あ死ものに至りて強て自から之を披露せざるまでも人の之を吹聽すると禁ずるに及ばぬとあり凡そ事は格別秘密なゝざるに恰も秘密らしき外說を呈するより害なるはあゝ例へば新聞紙上れ記事ゝて明々白々ゝ之を記せば誠に平凡なるものにてもワザと其間に疑惑を存し奥齒に物のハサマリゝるが如く事々しく之を筆するときは讀者は種々の想像を加へて疑心ゝ暗鬼を畫くとなきに非ず左れば人の言論は成る丈け之を自由にして所謂秘密中の秘密と除くの外い何事に付けても腹藏おく之を公言せしむる方獨り記者の爲めのミあらず當局者れ爲めにも亦甚ど得策なる可しと信ずるゝり單に此點より觀察すれば今の新聞條例に原稿出所の證明等の事項ゝりて時々記事の出所と證明せまむるが爲先記者い古紙堆中と搜索して其都度原稿を調査せるも煩いしく將た又原稿寄送者ゝ迷惑を掛けては氣の毒あゝなど前後と斟酌まて幾分か記事と曖昧にする其記事が之を明言ゝるよりも一層深く人心と感動するは我輩れ每度實驗ゝる所あれば彼の秘密と秘密ゝせんとして秘密あらざる事にまで總て秘密らしき外說と鈴いしむるい我輩の取らざる所あり又言論を自由ゝせば所謂私身攻擊れ風を生ずべゝとは或は事實なるやも知る可らず我輩の甚ど嫌惡する所なゝ共又一方ゝり觀察すれゝ東洋れ風習にては私身攻擊の人心を感動ゝるの度或は西洋諸國の如く激切あらざるの場合もあきゝ非ざるべし其故如何と云ゝに所謂私身攻擊の目的と爲るものい金錢の事を除きては重に品行の點ゝ在るもの〳〵如し然るに東洋諸國ゝてい英雄色を好むと云ひ大功は細瑾を顧みずと云ひ私行と律すると寛大にして大に假借する所ゝり先頃の事ゝり英國れ政事家ナヤーレス　ヂルク氏い有夫森の嫌疑を受け法廷にて辯回とおく對審と受けたる後其申分相立ゝずとの判決と受けされば氏は英國に居たゝされず一時は一政派れ領袖と爲りグラッドストン氏の內閣にて地方政務局長の顧職を奉ゝゝるにも拘はらず遂に英國を立去りて佛國に流寓するの身とは爲れり氏い耶蘇教國品行論の喧しき英國に生れたれば不幸にして此失敗と招きゝるおれども氏をして若し東洋の政事家ならしめば他國ゝ逃避するにも及ばず法廷ゝ出席するにも及ばず乃公自から手を下さゝるも下流の者が早く已に其意と承けて其跡を滅するゝ易々たる可し現に今日の實際に於ても英雄豪傑が功を花柳の街に博して意氣揚々之を人に誇る程れ有樣にして人の品行に殆んど檢束なきが如くなれば其品行論の人心を感動ゝるこゝも亦彼の英國の比に非ず故に理窟一偏に論ずるゝきい東洋諸國にて い此點に關する言論は英國よりも餘程自由なる可きに似ゝり併し是れは極端の言にして何れの國ゝても私身攻擊を卑まざるものゝあきが故に東洋の事情風習如何ゝ拘ゝらず我輩は斷然之を排斥するものゝゝり外にして記者論客の心事ゝ日にます〳〵高尙なるゝと加へ國事の秘密之と洩して國に害ゝるもれと私身攻擊人を害し兼ねて又自から害するもれとは人の檢束を待たずして自から之を言論するゝと避く可きが故ゝ當局者も此等の老婆心と去り記者論客の言論に對して成る可き丈けの自由と與へて可なり聞くが如くなるゝば我政府にては近々出版條例を改正し追て新聞條例をも改正するの意ゝりと云ゝ我輩の聊ゝ愛に一言する所以なり

官報

官

○東京府令第三號

常置委員會ノ決議ヲ經テ明治十九年（十一月）府令第四十三號明治十九年度區部地方稅臨時收入豫算中第四項ヲ削除シ左ノ二項ヲ挿入ス

明治二十年一月二十四日　東京府知事高崎五六

一金千八百八十圓九十九錢四厘　雜種稅
但十九年度豫算額ニ對シ賣收過
一金千七百二十六圓十三錢九厘　家屋稅
但同上

（本年一月二十四日官報）

雜報

○緒方都一郎氏ハ論文　昨日の紙上ゝ約したる慶應義塾生徒緒方都一郎氏ゝ同塾の試文に於て甲點と得たる論文は左れ如し

諸外國ニ對シテ我國ノ体面ヲ維持スルノ道如何

我ガ死後ハ天下夫レ洪水ナラン乎トハ佛王るい十五世カ佛蘭西革命ノ前其未來ヲ想像シテ發シタル臨終ノ遺言ナリ今ヤ東洋ノ運命ハ漸ク困難ノ位置ニ立チ至リ強露其北ヲ扼シ英佛其南ニ迫リ獨逸其中間ニ乘ジテ將ニ大ニ爲スアラント欲スルモノヽ如シ抑モ西洋諸國ノ東洋事件ニ注目スル一朝一夕ニアラズ英ノ印度ヲ取リシ以來各々新地ヲ東洋ニ得テ以テ自國ニ重キヲ加エント欲スルノ念勃然トシテ起リ輦轂ニ籌ヲ運ラシ千里ノ外ニ艦隊ヲ馳セ露ニ乘ジテ發セントスルノ狀ハ恰モ東風雪融ケテ溪澗水將ニ溢レントス欲スルモノヽ如シ堤防ノ用意其レ急ナラザル可ケンヤ天ノ未ダ陰雨セザルニ迨ンデ牖戶ヲ綢繆スルハ智者ノ事ナリ我日本國民ダルモノハ此後多事ナラントスルニ際シ早ク之ニ備フルノ謀ヲ爲サズンバ或ハ不測ノ變ニ陷ランモ亦知ルベカラザルナリ

然リ而テ今此變ニ處スルノ謀ヲナシ以テ我國ノ体面ヲ永遠ニ維持スルノ道ハ至大至難ノ條件ニシテ此至大至難ノ問題ヲ解釋スルニ當リ世ノ學者論客ハ各自己ノ意見ヲ吐露シ內治ヲ先ニスベシト云ヒ外交ヲ專ラニス可シト云ヒ軍備擴張ヲ論ズルアレバ殖產興業ヲ說クアリ其主張スル所各々異ナリト雖モ詰ル處ハ事ノ大休ヲ明ニセズ其本末ヲ論ゼズ己ノ見込ヲ以テ社會ヲ矯正セント欲スル者ナリ然レドモ社會ハ數多元素ノ集合体ニシテ其關係複雜ヲ極メレバ其前後ヲ審ニシ其關係ヲ知リ以テ其眞理ヲ探究スルニ非ザルヨリハ焉ゾ之ヲ實際ニ應用シテ其結果ヲ望ムベケンヤ抑モ我國開港以來三十有五年文物制度凡百ノ事業盡ク歐制ニ摹倣シ漸次舊套ヲ脫シテ改良ノ域ニ進ムモノヽ如シト雖ドモ積年ノ餘習容易ニ洗滌スベカラズ封建時代士尊民卑ノ弊ハ官尊民卑ト姿ヲ易ヘテ社會ニ現出シ上ハ總理大臣ヨリ下獄丁巡査ニ至ルマデ苟モ官吏ノ名稱アルモノハ自然其身ニ尊嚴ヲ加ヘ其人民ニ對スルヤ問々昔時封建ノ武士ガ百姓町人ヲ遇シタルト同樣ナル仕打ナキニアラズ人民モ亦之ヲ尊崇シテ忠誠ヲ表シ德願ヲ敎シ汲々トシ唯其及バザルヲ恐ルヽモノヽ如シ而シテ民間ニ一事業ヲ創立スルト時ニ當テモ銘々獨立ノ氣象ヲ以テ之ニ盡力スルヿナク只管官ニ依賴シ官ノ保護ヲ仰ギ以テ得意ノ顏色ヲナスハ果シテ何ノ心ゾヤ斯ク保護ト云ヒ監督ト云フモ詰リ政府ノ世話ニシテ其權ハ政府ニアレバ其事業ハ即チ官ノ事業ナリ官ノ事業ナレバ其性質モ他ノ商社商店ニ比シテ大ニ異ナラザルヲ得ズ其社ハ官衙ノ如ク其役員ハ官吏ノ如ク其規律モ自ラ寬裕ニシテ通常人民ノ如ク錙銖ノ利ヲモ重シテ互ニ競爭スルノ念アルナシ學校ノ如キモ其官立公立ニ係ルモノハ優渥ノ特典アリテ私立ニハ之ナシ唯官ト私トノ名稱ノミニシテ聊其品位ニ相違ナキモ其取扱ニ逕庭アルハ實ニ驚クベキノ至リナラズヤ官ハ益々尊クシテ民ハ益々卑ク上下隔絕シテ其間ニ一大鴻溝ヲ劃シ官ノ事ハ敢テ下民ノ喙ヲ容ル、處ニ非ズト固ク其口ヲ噤ンテ盲ハザラシムルモノハ蓋シ其嘘騙徒ニ社會ヲ擾ラヾルヿヲ恐レテ然ルモノナラント雖モ之ガ爲ニ民情ヲ伸ルノ手段ナク動モスレバ政府ノ忌憚ニ觸レ法律ノ罪人タルニ至ル此ニ於テ平巧ニ辭ヲ飾リ筆ヲ廻ノ婉曲ナラシメ以テ其什一ヲ洩スモ焉ゾ其身ヲ社會ノ耳目ニ委ネ口ヲ閉テ一ダビ胸中ノ說ヲ吐クノ愉快ヲ得ベケンヤ官民互ニ猜疑シテ事物ノ澁滯ヲ來タス是レ果シテ誰ノ罪ゾヤ夫ノ文明諸國ノ有樣ヲ見ルニ官民和合シテ其運動圓滑ヲ致シ其政府ハ人民ノ政府ニシテ人民ノ爲ノ政府ナリ其言論ハ自由ニシテ假令ヘ帝王ノ嚴、政府ノ威ト雖モ敢テ一個人ノ自由ヲ妨クルヿナク其人權ヲ重ンズルヿ斯ノ如シ我國ニ於テハ人權ノ未ダ伸ビザル處アリ宜シク之カ恢復ヲ圖ラズンバ官民ノ調和ハ迚モ成ルベカラズ將タ又國權ノ伸張モ到底覺ムベカラザルナリ

併シ乍ラ斯ク人民ガ政治上ニ喙ヲ容レント欲スル者ハ外國トノ交涉少クシテ痛痒ヲ感ズルノ念モ薄ク其勢遂ニ內治ノ如何ヲ議スルニ至リタル者ニシテ若シ一旦外國ト皷旗ノ中ニ相見ユルヿアラバ雖ドカ國政ノ是非ヲ論ズルニ暇アランヤ嘉永年間五國訂約以來我國外交政事ハ如何ナル有樣ナリシヤ當時攘夷ノ論盛ニシテ外人ヲ殺戮シ洋艦ヲ砲擊シタカ爲メ時ノ政府ノ損害モ亦少々ナラズ其困難モ隨分大ナリシト雖モ降テ明治維新後ニ至極平和ノ有樣ニシテ其間淸國ト臺灣ノ役アリ朝鮮京城ノ變アリト雖ドモ我國ノ面目ヲ落サズ嚴然トシテ東洋ノ盟主タルノ勢ナリシガ明治十七年京城ノ再亂ニ於テ我國ノ評判稍衰ヘタニ反シテ支那ノ勢力ハ漸々增進シ佛國ニ抗シテ其鋒ヲ挫キ米國ニ向テ其非ヲ鳴ラシ東朝鮮ヲ壓シテ我日本ニ迫ラントス近ク ハ長崎ニ於テ支那水兵ノ暴動ノ如キ其事實明白ニシテ其ノ是非曲直ノ在ル所兩言シテ決スヘキモノナルニ彼ノ剛愎執拗却テ我國ノ活潑ナルヲ忌ミ琉球事件ニ含ミ深ク我ニ仇セント欲スルモノヽ如シ說ヲ爲ス者曰ク我國ト支那トハ東洋ノ舊友ニシテ誠ニ唇齒ノ間柄ナリ今諸強國ノ其際ヲ窺フニ際シ小故ヲ以テ怨ヲ搆フハ智者ノ爲サヾル所、若カス寬貸シテ之ト隣好ヲ修センニハト誠ニ隣好ヲ修ム友誼ヲ全スルハ我々ノ望ム所ナレドモ我國ト支那トハ其嗜好ヲ一ニセズ其感情ヲ同フセズ故ニ我レ道ヲ以テ交ラント欲スルモ彼レ頑ニシテ可カズンバ何ゾ之ニ屈服スルヲ得ン必ラズヤ之ニ對スル計ヲ爲サヾルベカラズ人ノ劍ヲ接シテ來ラバ我亦劍ヲ以テ之ニ向ハザルヲ得ンヤ今ヤ西洋諸強國ノ東洋ニ注目スルノ日ニ當テ支那ニ一歩ヲ讓ルヿアラバ我國ノ体面ハ迚モ維持スベカラザルナリ雖モ詰ル處ハ事ノ大休ヲ明ニセズ其本末ヲ論ゼズ己ノ見込ヲ以テ社會ヲ矯正セント欲スル者ナリ然レドモ社會ハ數多元素ノ集合体ニシテ其關係複雜ヲ極メレバ其前後ヲ審ニシ其關係ヲ知リ以テ其眞理ヲ探究スルニ非ザルヨリハ焉ゾ之ヲ實際ニ應用シテ其結果ヲ望ムベケンヤ抑モ我國開港以來三十有五年文物制度凡百ノ事業盡ク歐制ニ摹倣シ漸次舊套ヲ脫シテ改良ノ域ニ進ムモノヽ如シト雖ドモ積年ノ餘習容易ニ洗滌スベカラズ封建時代士尊民卑ノ弊ハ官尊民卑ト姿ヲ易ヘテ社會ニ現出シ上ハ總理大臣ヨリ下獄丁巡査ニ至ルマデ苟モ官吏ノ名稱アルモノハ自然其身ニ尊嚴ヲ加ヘ其人民ニ對スルヤ問々昔時封建ノ武士ガ百姓町人ヲ遇シタルト同樣ナル仕打ナキニアラズ人民モ亦之ヲ尊崇シテ忠誠ヲ表シ德願ヲ敎シ汲々トシ唯其及バザルヲ恐ルヽモノヽ如シ而シテ民間ニ一事業ヲ創立スルト時ニ當テモ銘々獨立ノ氣象ヲ以テ之ニ盡力スルヿナク只管官ニ依賴シ官ノ保護ヲ仰ギ以テ得意ノ顏色ヲナスハ果シテ何ノ心ゾヤ斯ク保護ト云ヒ監督ト云フモ詰リ政府ノ世話ニシテ其權ハ政府ニアレバ其事業ハ即チ官ノ事業ナリ官ノ事業ナレバ其性質モ他ノ商社商店ニ比シテ大ニ異ナラザルヲ得ズ其社ハ官衙ノ如ク其役員ハ官吏ノ如ク其規律モ自ラ寬裕ニシテ通常人民ノ如ク錙銖ノ利ヲモ重シテ互ニ競爭スルノ念アルナシ學校ノ如キモ其官立公立ニ係ルモノハ優渥ノ特典アリテ私立ニハ之ナシ唯官ト私トノ名稱ノミニシテ聊其品位ニ相違ナキモ其取扱ニ逕庭アルハ實ニ驚クベキノ至リナラズヤ官ハ益々尊クシテ民ハ益々卑ク上下隔絕シテ其間ニ一大鴻溝ヲ劃シ官ノ事ハ敢テ下民ノ喙ヲ容ル、處ニ非ズト固ク其口ヲ噤ンテ盲ハザラシムルモノハ蓋シ其嘘騙徒ニ社會ヲ擾ラヾルヿヲ恐レテ然ルモノナラント雖モ之ガ爲ニ民情ヲ伸ルノ手段ナク動モスレバ政府ノ忌憚ニ觸レ法律ノ罪人タルニ至ル此ニ於テ平巧ニ辭ヲ飾リ筆ヲ廻ノ婉曲ナラシメ以テ其什一ヲ洩スモ焉ゾ其身ヲ社會ノ耳目ニ委ネ口ヲ閉テ一ダビ胸中ノ說ヲ吐クノ愉快ヲ得ベケンヤ官民互ニ猜疑シテ事物ノ澁滯ヲ來タス是レ果シテ誰ノ罪ゾヤ夫ノ文明諸國ノ有樣ヲ見ルニ官民和合シテ其運動圓滑ヲ致シ其政府ハ人民ノ政府ニシテ人民ノ爲ノ政府ナリ其言論ハ自由ニシテ假令ヘ帝王ノ嚴、政府ノ威ト雖モ敢テ一個人ノ自由ヲ妨クルヿナク其人權ヲ重ンズルヿ斯ノ如シ我國ニ於テハ人權ノ未ダ伸ビザル處アリ宜シク之カ恢復ヲ圖ラズンバ官民ノ調和ハ迚モ成ルベカラズ將タ又國權ノ伸張モ到底覺ムベカラザルナリ

（下我國ニ必用ノ足ルヘキ程ノミ然レドモ足ルカ二十數年ノ間ニ至リ適セス實ニ兵百萬水兵八千ヲ購入シ民ノ如シ佛ハ他ノ長港ヲ求メ地ハ東洋ノ海水深クシテ露國ノ之ニ碇泊シ誠ニ賀スベキノミ富嶽ヨリ高ク海ヨリ深キ偖此目的ヲ達シテ方今一日ノ刀ヲ以テ一日ノ必ラスヤ兼ネカラス又假令ヘ蛮兒モ敢テ侵ノミナラズ我國ノ必用ノモノナリ故ニ

受クルト云フモリ論者ハ徒ニルカ苟モ愛國宜敷彼ノ紅

其主張スル所各々異ナリト雖モ詰ル處ハ事ノ大休ヲ明ニセズ其本末ヲ論ゼズ己ノ見込ヲ以テ社會ヲ矯正セント欲スル者ナリ然レドモ社會ハ數多元素ノ集合体ニシテ其關係複雜ヲ極メレバ其前後ヲ審ニシ其關係ヲ知リ以テ其眞理ヲ探究スルニ非ザルヨリハ焉ゾ之ヲ實際ニ應用シテ其結果ヲ望ムベケンヤ抑モ我國開港以來三十有五年文物制度凡百ノ事業盡ク歐制ニ摹倣シ漸次舊套ヲ脫シテ改良ノ域ニ進ムモノヽ如シト雖ドモ積年ノ餘習容易ニ洗滌スベカラズ封建時代士尊民卑ノ弊ハ官尊民卑ト姿ヲ易ヘテ社會ニ現出シ上ハ總理大臣ヨリ下獄丁巡査ニ至ルマデ苟モ官吏ノ名稱アルモノハ自然其身ニ尊嚴ヲ加ヘ其人民ニ對スルヤ問々昔時封建ノ武士ガ百姓町人ヲ遇シタルト同樣ナル仕打ナキニアラズ人民モ亦之ヲ尊崇シテ忠誠ヲ表シ德願ヲ敎シ汲々トシ唯其及バザルヲ恐ルヽモノヽ如シ而シテ民間ニ一事業ヲ創立スルト時ニ當テモ銘々獨立ノ氣象ヲ以テ之ニ盡力スルヿナク只管官ニ依賴シ官ノ保護ヲ仰ギ以テ得意ノ顏色ヲナスハ果シテ何ノ心ゾヤ斯ク保護ト云ヒ監督ト云フモ詰リ政府ノ世話ニシテ其權ハ政府ニアレバ其事業ハ即チ官ノ事業ナリ官ノ事業ナレバ其性質モ他ノ商社商店ニ比シテ大ニ異ナラザルヲ得ズ其社ハ官衙ノ如ク其役員ハ官吏ノ如ク其規律モ自ラ寬裕ニシテ通常人民ノ如ク錙銖ノ利ヲモ重シテ互ニ競爭スルノ念アルナシ學校ノ如キモ其官立公立ニ係ルモノハ優渥ノ特典アリテ私立ニハ之ナシ唯官ト私トノ名稱ノミニシテ聊其品位ニ相違ナキモ其取扱ニ逕庭アルハ實ニ驚クベキノ至リナラズヤ官ハ益々尊クシテ民ハ益々卑ク上下隔絕シテ其間ニ一大鴻溝ヲ劃シ官ノ事ハ敢テ下民ノ喙ヲ容ル、處ニ非ズト固ク其口ヲ噤ンテ盲ハザラシムルモノハ蓋シ其嘘騙徒ニ社會ヲ擾ラヾルヿヲ恐レテ然ルモノナラント雖モ之ガ爲ニ民情ヲ伸ルノ手段ナク動モスレバ政府ノ忌憚ニ觸レ法律ノ罪人タルニ至ル此ニ於テ平巧ニ辭ヲ飾リ筆ヲ廻ノ婉曲ナラシメ以テ其什一ヲ洩スモ焉ゾ其身ヲ社會ノ耳目ニ委ネ口ヲ閉テ一ダビ胸中ノ說ヲ吐クノ愉快ヲ得ベケンヤ官民互ニ猜疑シテ事物ノ澁滯ヲ來タス是レ果シテ誰ノ罪ゾヤ夫ノ文明諸國ノ有樣ヲ見ルニ官民和合シテ其運動圓滑ヲ致シ其政府ハ人民ノ政府ニシテ人民ノ爲ノ政府ナリ其言論ハ自由ニシテ假令ヘ帝王ノ嚴、政府ノ威ト雖モ敢テ一個人ノ自由ヲ妨クルヿナク其人權ヲ重ンズルヿ斯ノ如シ我國ニ於テハ人權ノ未ダ伸ビザル處アリ宜シク之カ恢復ヲ圖ラズンバ官民ノ調和ハ迚モ成ルベカラズ將タ又國權ノ伸張モ到底覺ムベカラザルナリ

併シ乍ラ斯ク人民ガ政治上ニ喙ヲ容レント欲スル者ハ外國トノ交涉少クシテ痛痒ヲ感ズルノ念モ薄ク其勢遂ニ內治ノ如何ヲ議スルニ至リタル者ニシテ若シ一旦外國ト皷旗ノ中ニ相見ユルヿアラバ雖ドカ國政ノ是非ヲ論ズルニ暇アランヤ嘉永年間五國訂約以來我國外交政事ハ如何ナル有樣ナリシヤ當時攘夷ノ論盛ニシテ外人ヲ殺戮シ洋艦ヲ砲擊シタカ爲メ時ノ政府ノ損害モ亦少々ナラズ其困難モ隨分大ナリシト雖モ降テ明治維新後ニ至極平和ノ有樣ニシテ其間淸國ト臺灣ノ役アリ朝鮮京城ノ變アリト雖ドモ我國ノ面目ヲ落サズ嚴然トシテ東洋ノ盟主タルノ勢ナリシガ明治十七年京城ノ再亂ニ於テ我國ノ評判稍衰ヘタニ反シテ支那ノ勢力ハ漸々增進シ佛國ニ抗シテ其鋒ヲ挫キ米國ニ向テ其非ヲ鳴ラシ東朝鮮ヲ壓シテ我日本ニ迫ラントス近ク ハ長崎ニ於テ支那水兵ノ暴動ノ如キ其事實明白ニシテ其ノ是非曲直ノ在ル所兩言シテ決スヘキモノナルニ彼ノ剛愎執拗却テ我國ノ活潑ナルヲ忌ミ琉球事件ニ含ミ深ク我ニ仇セント欲スルモノヽ如シ說ヲ爲ス者曰ク我國ト支那トハ東洋ノ舊友ニシテ誠ニ唇齒ノ間柄ナリ今諸強國ノ其際ヲ窺フニ際シ小故ヲ以テ怨ヲ搆フハ智者ノ爲サヾル所、若カス寬貸シテ之ト隣好ヲ修センニハト誠ニ隣好ヲ修ム友誼ヲ全スルハ我々ノ望ム所ナレドモ我國ト支那トハ其嗜好ヲ一ニセズ其感情ヲ同フセズ故ニ我レ道ヲ以テ交ラント欲スルモ彼レ頑ニシテ可カズンバ何ゾ之ニ屈服スルヲ得ン必ラズヤ之ニ對スル計ヲ爲サヾルベカラズ人ノ劍ヲ接シテ來ラバ我亦劍ヲ以テ之ニ向ハザルヲ得ンヤ今ヤ西洋諸強國ノ東洋ニ注目スルノ日ニ當テ支那ニ一歩ヲ讓ルヿアラバ我國ノ体面ハ迚モ維持ス